漲ざらんある時は山瀧の水かさまして
落きればそのさきの中め山に入其水上
を尋ぬらんとせしかれば岩の洞穴の
の流れまで埋れく久しき青柳老朽木有
かれ木よりおちまする喜男子に尋ぞ
まずば依れ親に麻ひ楊柳観音れ
御志よ細く書きまうしても皆人
年せ合をれそしを尋ね越しまして翁と
申をば朽木は柳かみどりとかい桜り
あらぬ若木を造り白妙に花咲きけるて
こう千手は誓ひに枯るゝ木にも花咲く
世の今の世まで申すなり

同

やそら移て行山とちかておやおたる樹
志きをきたんほくまへる日山深きに思行
を四王寺讃岐にも松山陰つけし雲の
る嶺懸かく白峯になだいきん候ときき
まはぜんせん丹後丹波の境なる鬼が
城の関サマ天狗よりもておろうやそそ
京の地て山々摂家ち近き山あふごたる山
荒太郎坊ひらの峯は次郎坊鞍馬
まし鞍の大嶽におとろし心のまそう社
陀は横川のながれる聖目ははそのまて
の羽んてや屋さをなきなどめまかづら
ままや高尾山上大峯釈迦の嶽
富士れる根にあがり雲に起伏

時ぞ有がたけれは拝みめぐりきて心のぶる
おこれき忍びらきらたるなきらしきを見
ていうろれをつゝいかで入山く嶺く
果くぞめぐりくてあの傍よのひ
なうららきよ捨より洗けるをを
捨くたほへあなる御僧につき
奉らむきく仙道にまし奉らせらく佛
道の修行に出るぞらむらきを
こまく

鍾馗

槿乃花のよれる露よりぞもろれきは
かゞろうのあるかなきかの身をもちてせ
を秋風のちるべき野辺の田鶴は

城遠く四面は田長の声ぞ高くよみ
ぢさらぬはらばあまたありきが人累
それは難きなりべき

項羽

つれくらすきまんいのほのか哀なる
きさきまんいれおの日れはちあめり
浮く味方をえきば高祖よ属して
よせきたる敵の叫ぎ声くまけ
む勝立つぞ物みきとうつらきを出
敵をちらつかるてい撥まそずいろ
かせ形ち角そりくよれをおしかに
アまけるいきほひあれど運尽きめきば
烏江の野辺の露と中は露とぞ

なりにけれ

橋弁慶

シテ「さればこそ若者よ物見せんと長刀
やがて取りすまし しづしづとその
刃を近く手もとによせ 払と切らんとすれば牛若
この方少しもさわがずして ひらりと飛んで
衣引のけ しづしづと太刀抜きも
あはせ かかれば合ひたる長刀のきつさき
きす太刀打のあはせつめ ひらひらとかた
ひらの行きかたをまよりまん 手をくだし牛
若は弁慶がかたへ寄りかかりて かさねて
うつ太刀よりそれ 弁慶あはせかねて
橋桁を二三間退いて 肝をぞ消しける

けりきりきれ

熊坂

シテ「熊坂思ふやう 打物わざにて其くりやう切と
人をもきらざらんや 懐より秘術をつくし
ならびなき天魔鬼神にても 手を掴で
微塵にあたる者どもをれ つづく
けれども それとて道より 続く
例の長刀ひきそばめ 妻戸のこだてに
とりて 彼の小男が持ちたりけり 姿
走り入りて太刀抜きて かかれども
隔て立つ熊坂も 長刀かまへ入るかとみれば
かく待つうがつ 熊坂も 手をさしのべて
かくて通れ 行く長刀も

さらぬ躰手々へこをば追懸もかなはじと
こゝは長刀にてあしらはんと其まゝはらひまはし
打ち拂ひてひきそばめてへうへうと追拂ひ
直なるちやうときれば中にてはづすを
ほどくにぱつと開いて掛くべき隙もあらばこそ
其の刀をばそらさせて変や
かゝる錫杖に寄りてもよらぬうし
ろより具足のすきまをちやうときれば
さうつてあのくゞりまぎらし力の腹立
さしもの熊坂も天命の運の極ぞと思ひける

小督

いたづらにちらばる露の玉たぞ
ても思はぬ思ひ有 ウ 責てやまぞ

しるべむとく駒にまかせて露のちる中を行
うら秋風はやゝ寒くそゞろに鳴く虫の声もかれがれに
野の露やらむ月に何ちるらね
まして都を花や誘ふらん是ぞ尋ぬる
かゝる折にも有明の月や面白
あはれ今宵は二五夜中の新月の色
二千里外の故人の心遠からぬ嵯峨野の寂寥べき
動きてぞ尋ね行く心もいさむ弓のあづさ弓よ
あひてぞ心をよ小鹿の声も山里とあはれ
なる
嵯峨野の方の秋の空さこそ心もさえわたる
そもやとわたる片折戸を志るべにて
月に鞭をあげて駒をはやめて路
乗る駒の家居の僅なれぞやと思ふ家の

しこおんがくをきよめかけのさゝくひく
えりくまげども琴の人ぞなかりける
ぱいやあくの礼出でゝ法輪は嵐を
琴ころものこゑのまれ峯の嵐か松
風かそれかあらぬか尋ぬる人のおとにこの
楽は何ぞと聞たれば夫を思ひて
おつとの想夫恋なるぞうれしきま

同

唐帝の古へも驪山宮の私語もよしなめ
もぬるゝよおもふの露の命も篠竹の
袖は朽ちぬ秋の霜も寝ぬ夜ふる
あられ風のつらさ身にしめる心
ゆゝしく人も聞とぞ思ひの哀れを

まさへはならでわが世を思ひかね
かざるよ身のなきはかなさ
だきても今は恋慕の涙に成
とらや見えず雲も頼みも有
明の月の宮ぞ教ふ
られ御恵みも賞翫の袖を
や向きてなすといふある捌ん

野守

あるよとりてしるく見るよしや
これの水は影ありきれぞ
やどる来るに有るぞ捌こそあし
鷹の野守の鏡それ思ひ
ねそらに金のあづさ弓とおもひてそ

本は蜀をうばはんとて故なり。張良ようてきはいをうくみをもをさげうの音野乃ぞおひの野より出あひく。數魚よかくるがるるを老の男でのせ獲りを申さばそもそもあらでのれく

張良

石公馬をうとおよりおりをを。おそ
みても此善哉くと。彼一巻しををり
出。張良よあるへ給ひうべまれをち
拔きをとくく軍見。柾曲品傳を
張ばつへまる。彼大蛇へ觀音乃
再縁をもちぐ心ぶをためをまば
今よりをはをを。守護神と成べと

大蛇へ雲井よ攀ぢをきべ石ぶちるかの
高ぶりあぐり。まきしれをりを虚
空よまれ。ぶをいをもち姿を黄ふと
あり乃ぞうをを有弱き

兒生門

綱をきぶを太刀ちかぶ。
此をちぶや玉地をかを。を天野
乃ぞまぶををきれば。鉄
杖をりあぎぶいやと打ぶ。ちぶちり
をさるぞまれてをぶく。ぶをうを劍り
うで打ぶをきひをとををぶ
をりちてのぶを。ををりて。ぶり
きををを。ぶれをを黒雲打ちひ。ぶれ

ときまちて又とるべしとよばはる声も
かすかにきこゆる鬼神よりもおそろし
かりし綱は名をぞあげにける

鉄輪

いでいで命をとらんと笞をふりあげ
うはなりの髪を手にからまいて
うつや宇都の山の夢現ともわかざる浮世に
因果はめぐりあひたり今さらさこそくやしかるらめ
さてこりや思ひ知れことさらうらめしき
あだし男をとつて行かんとふしたる枕に立ちより見れば
おそろしや御幣に三十番神
ましまして魍魎鬼神はけがらはしや
いでよいでよとせめ給ふぞや
腹立ちや思ふ夫をばとらであまつさへ神々の
責めを蒙る悪鬼の神通通力自在の勢ひ
絶えて力もたよたよとあしよは
車のめぐりあふべき時節を待つべ
しやまづこの度はかへるべしと
いふ声ばかりはさだかにきこえて
きこえずめにみえぬ
鬼となりにけり目にみえぬ
鬼となりにけり

藍染川

しかれども平生の行業に紫雲たなびき
多よとあらためるはあらたなる
眠りてまよふるをひらくみな

し嬋娟の黒髪へ乱れそゝ草の根

ますらりえんてんとねまのずそ涙

失ふ面影かきの身の果ぞ悲しま

紅顔翠て憔悴月八華麗を失へりひよう

乃亀の尾をぶく独起て有れもあ和

むべなふ夜さてうんは鳥の音、雁叫

絶え消えきく、鄒の声よ打絶えて、思ひ

やるせなさらん

雲雀山

あさきゝらちめ、緑の糸もたれ衣

あうきのみまぞ有るきれをまちてらア

つよ。まつ隣つる枯君。いつら衣まつされ

面影のこゝろかゝよ鳥乃鳴らんさこゑ

是ならくのまことのあはれさよかくてぞ

花ありめぐる鳥もさらやむ今ぞろ思ひ

乃露をふてなみ、結びきの花衣野

をかの山よ出づれどもあらに人をまち

みれどもかゝらちてあまたどなよ、あどやの

露をれぬ、きれかせてこそ知らました

ていのよ今はむなしてなうずこのや

このゝ柏の二本ありてぞこまもかくにても

是の金剛めよ峨くかづらきや、高間

の山紀嶺つゞき宮よ紀の路はさとのひ

あれを雀山よ隠れなく、我なあされ

さ、からめちそなさの谷陰の鶏はなつぎき

ちらねされや露よもされ雨よられかく

てそきえやらぬ御身乃果ぞしらせ
志き

住吉詣

かしづきの心ども夕汐みちきて、入江の田
鶴も声、をしまぬほど哀れなる折から
人目も忍ぶ海士も逢まほしく
思へども、そや漕ぎはなれて行舟の
跡まきてそ、昔に似たる旅衣、たゝん
の鴫も、遠ざかるまゝに名残もをし
の車にめされつゝ、のぼりまべ下向や
いざ舟出、舟の纜もあらのくぞ惜しみ
の浦までの森かけ思ひ出われ
う那

谷行

一切有為乃世のならひ、如夢幻泡影
如露亦如電、あらき浮世のはてくらけて
ころもそ、たちかひまひやすきそれ
乃行者の道にいなからふ、火宅乃
門を出でゝ、程無き三界に親
の恩をも忘れ、今にやひとかくきり
兼てかくては別れをつれて、皆面
面々思ひきり、邪見乃剣をもち
ぶく心をもち、彼人をぞ切る谷
のさしまで、石におしや岩
、あめつちくれをうちたてんとを
いつて泣をあげ、皆面々に泣き路

半部

[illegible]氏の中將と申すは、[illegible]の事拙[illegible]なるうゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ、[illegible]をきけばみな、[illegible]
[illegible]戰精進乃[illegible]南無當來導
師。弥勒[illegible]唱へ[illegible]
[illegible]養[illegible]時乃思ひ[illegible]
[illegible]れ[illegible]
[illegible]宿[illegible]見[illegible]
[illegible]せ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

獅師冒我

[illegible]門の獅とて。思ひ[illegible]
[illegible]おこ我より[illegible]命[illegible]勝負
[illegible]特聖の源六其[illegible]武[illegible]
我[illegible]
[illegible]合せ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くるま僧

（ワキ詞）いでくわらば露地乃白牛を
うけて乃んきんと。拂はぬあらく
虚空に得らでは、よ思儀やおこ乃
くる庭乃くくゆる花ぬりて
今迄は足よは車とみえつるが、牛も
なく人もひかねよなるくとやり縣
て如ら車とこそ成りきれ　小車
乃山のおくおすれ道ちら法乃みち
のべ遊行して貴賤れ利益あると
うや、所ら家は浮世乃隠れ新理
や、雪れかるみち跡かくす車乃あと
ちは見びきの大雪おかりけり

吉野天人

いにしへろへ移るその上つく琵琶琴和
琴笙ひちりきの声やむで鞨鼓や笛行
の拍子みつらす秋まで風の天津乙女
乃羽袖をかへし花よたたふまふ
とやぶ乙女は舞姿君が代をつくな
でし岩をもつきぬや春の花の精
不舞遊び飛行がり舞ひでる空人そ
うるき君の恵ぞ治る国の天は風
雲の通ひ路吹とぢよや乙女の姿をとまる
まれ霞そたなびく三芳野の吉野
の山桜うつろふ花へかへす袖
は花のりまる麗花の雲乃のそ
ゆくへも知らずぞなりにける

大佛供養

柳是も平家は悪逆無道景清と名乗てあくまをなのゝ丸とゝゝ。もろともと投てもち立向ひ大勢よりゐくいまべさうをかゝめ難を固るれども四方へ散ぬとぞ逃てけり中れわるあまをとゝ出くゝ。やをとゝ鎧ちちうとまきびゝ。ゝうとやとまで矛をとゝりもちもち勝負をゝきりゝ入うを景まよ是色なりとやをうゝ初会をしてゝ仕ゝ彼あぎれをゝ。かゝをべ雀立かゝゝ屋嘉白山ゝぎゝうよびゝ入わちきれゝ。ゝうゝ

忠信

時命を彼べきまと。虚空よ土ゝ
てうきれきり

忠信

其際よ忠信ゝ。ゝ為て弓矢のゝ大力過ひそうよ弱ゝ出ゝうかゝてちゝ
ゝくゝうきてひわをあやゝうゝ者
ゝあれいいうと味りかれべ地よ
伏陽ゝゝゝ便よ弱ゝゝうゝを
ゝ宿ゝとゝゝきうゝ掛ゝみ
ゝゝゝ向彼ゝて二ゝよれべゝゝを
ゝ大ゝ力かゝゝ。ゝ大ゝ力ゝ清流ゝ流
ゝ際うゝて。ゝ切級ゝ通ゝゝ。ゝうゝと遠
ゝ谷ゝ。蝶鳥のゝくよ飛翔ゝてうゝ

の如く不思議って起きてぞ見えける

烏帽子折

上 熊坂の長範六十三、今宵最後
的の夜討きむけ、鉄棒をとらんぬれ
捨五尺三寸の大太刀が、さるりや積ておかう
げ大鳥ぶとみゆるもとあまみこれ
有様いめず成天魔鬼神を面をむくべし
様ぞなきしあるもうくしや盗人なかく
めでまき足ある夜討いきとれも我中立
やあれそ通間あるまじ切て掛る熊坂
を大太刀つるひの曲者あれべききをつ
ろく十方切八方拂や腰車破れのくし
が進るり風さしやまての化す紅葉重

花重ろい双より火を出して互のたを
割て戦ひしが秘術が尽れ大太刀も惜
曹司のおた刀に切立られ猪太刀に成てそ
ろへおりきれ

大瓶猩々

上 きくの宿つまりて尽ぬ洒家
下 作らき鹿宿に名ひし続き
直 上 是迄なりや君が心に長
のお此のふて思ふべき又起あがり命
長えの此枚の酒の。道俗男女
ふ残さびさこめそうれいつらふ納置
きれいげやもし見まといようく
ようくとくりてて声ぞくなく秋万ぜひ

君千代までと。よ秋の宴嚴君千代迄と
祝ひ奉る千代とそ目出たき礼

鶴亀

時青月宮殿の白衣れ裾くくのをとめ
なる。花の紳。秋の時雨の松の紫紳。
きおそ行雪の裾をひるがへ袁も常盤
の雲は人の常世をとよ賞愛羽衣
は曲をあそぶ。海宝。四方はこのてよ代
万代と舞給へ。社頭人和興下作興をそ
やめ君のよそひをも生殿よ君の齢も長
生殿よ巡行まとそ。四方度きき

和布刈

竜神まれわち。顕きてのくく 和布刈

乃可は海底をうぶ。もろ乃高きを
ぴ切るまの水おつ。めぐりぬら
きれ中。よをき浪 河よをき
波とりまかをきりぞけ。屏風は
たくされおくくてはろきて海底の
神へ平こたり神ぬ。当ぶまの
振たてくく。そかまをそ。出
間をつひ波ぶくぶく。半町ぞろ
乃の海底乃和布をとる。かえり
給へば祝れく。跡よ。きぼ。ひ。みちて
ぴこのおくく。あら海と成く。波
自舟乃ぴこぞ和田ぬ。天をひて
雲乃浪煙れ。波風海とれ花

きべなる海を松蔭まで蛇神
を竜宮より引でおさへ入よきれ

大社

[illegible]時竜神御箱[illegible]ぐ。怠ひら
き。大龍を出。則神前よりぶき申
海陸[illegible]治御代入ありがた
めぐらう那四海安全に国治く
[illegible]。五穀成就福寿条波よいよく
君御身おべ[illegible]ひ。神あぎの
御[illegible]見[illegible]を拂ひ。神あぎの
あやまりあらせられい龍神平地よ
波[illegible]をおさへ[illegible]うまひの
きしゆせば[illegible]神虚空に遍満つ

ぶ。あらたあらせ御[illegible]あらる
なれ御社内龍神海中へ入よきり

東方朔

[illegible]時[illegible]
[illegible]君[illegible]
[illegible]給。[illegible]宣旨を蒙
[illegible]王母[illegible]
[illegible]緊遍の雲路よ
ぢより[illegible]雲路より地の
つ[illegible]天上[illegible]

春景

東路のぢ[illegible]山[illegible]松の[illegible]

[illegible]世の[illegible]若緑の[illegible]緑[illegible]老木も
若緑[illegible]行の親より睦び[illegible]兄弟
[illegible]と[illegible]親より
兄弟と常[illegible]孝行を[illegible]
[illegible]官[illegible]親より兄弟[illegible]
[illegible]

第六天

[illegible]盛鳥[illegible]
[illegible]
[illegible]

仁切宝〳〵出蛇乃首打打とり。ぶんさて。都へとりてとり。海りを捨

舎利

左へゆくと。右へ行も。前後も天地を震動して。怪鬼を虚空へとりて。ひめ殿を草枕天竺へ引ぬきて。怪鬼を大地へ打ふせて。首斬すて。舎利を取て。ひめ殿と共に。天竺へ帰り。舎利を捧て。草枕天竺へ引ぬきて。舎利を捧て。

小鍛冶

尊い。ひたすらを撰び。あたまをさらひたちまちよ。奏をもち退きと。四方へ散ぜを。あざやかへ。つゝ乃精霊あらはと。燃て燃えるもぶさ出へきれて。天よりやきの地へ。みちくて。猛火を加へ。敵をやきべ。扨乃清乃夷どもいちまち家中へ。焼て。ぶり。ぶた。四かい扨きまりて。家戸ぶりをこ。ぶり。そ。草ちぎれ。扨とろや。屋ぶ。ぶり。ぶ。ぶ。ぶ

よ松島くを思りて下向ぶ

石橋

獅子とりてんけ年、楽のみきもんく、牡丹の英ふほひみちく大きんときむけきかぶってやきやせるぶんほうくぶうきんけ、ふ顕きて、ゑたつき枝ろけ、ふひ、ゑそうかなき獅子ふけきひあひくゑ草木そあき時ちれやか巌千秋と年きめ、萬歳千秋くまひかやく獅子けふてそあちり生

合浦

是そ生ゑ、ゑふの渚ろ、寿命長遠泉紀延命の寞けむ、當来までの

二世の祈りひそ成れなるべ是迄あ
ひや織つる後の浦へ合浦なへ二度
帰る波ろ千秋萬歳のきかけむ。
子孫家業ろ寞のたまへ合浦れ
浦ふぞまきあり

生田敦盛

多くの平家ろ栄花を極し
そのいつめ。鳥風月ゑ尽きき
行幸管絃ろ極ぐよ書状を送り
ふ、ふ、ふ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かつのきぬ　時雨よぬきてあらしは
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

なるの村時雨のまのうちのこの紫
ぞそのおもかげまもるこのもの紫
らぬもしらやまとまれてもあぶ
まの奥の山里おのうちの面
都人の袖も涼しき言の葉の露
乃時てゆきてはなをゆえ
かもりくおもいの言葉のうちのえん
ぶきの法を授けて仏果をえめ

松山鏡

こはいかにかぎやおのく
れぬるの切かのよの鏡の
とよくくみきばうべよぎくの
鬼人まるやうのくく

を入れたりするの音麗乃
像をみそうよりの虚空に
ぎくの見きぬ冥途乃
地獄のかつるぞとく大地獄
増るく大地をかの
てゆ東高乃庭のよきれ

五 孔

中迄なる国あれべく中く
あきや君を船たれか水ほの
そのうまれまれ代あれべ東夷
西戎南蛮小狄乃ひまきあれべ弓
をそぶく。鈴を納め君をそれほ
ホ民を守りれうぬぐや宮よりた

[illegible]

大江山

[illegible]丹後丹波の境
[illegible]城を拵へて。頼光
[illegible]酒の数々を飲ませ
[illegible]酒の入るを待兼
[illegible]

岩船

[illegible]
[illegible]
[illegible]

部藏守紀章八世年二八八春
なれだ。きよ家そ同年まて
きよわ家ひそ紀き松る世を重
祖くりゆくや。男女松をつぬつ
門かどをるべそあらけきそ
ひしれきだ。可そ深ひ山桜。この
水を散ぬ堀水ひ。うきて出でよ風
船べとゆくゆく果で出てま

俊成忠則

桜そ我須ひうらて。接寝
くあめやくゆ。ゆれらの鉢
勢と。ゆれそ男られて
人魔世よゆくなりて。ゆれとそ風
ひぬと。紀貫之そ郎惟もかこう
ゆをきーかども。松の塚ゆうらせび
まりまのうゆ。ゆくゆのり鳥ゆ姉
あんはほどはよそつきをゆ敬
ひ。ゆよの神そ紀貫之ひ。男女婦の
嫌ゆも世ゆ情ゆるべ

同

ひるゆ。ゆ着くゆ。ゆ波やゆ。志がの
都はあれゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
桜ゆと。梵天瀬。ゆ百ゆ。ゆ鉢貫
ゆを見れて。ゆそゆと。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
きてゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
で。ゆ同ゆくゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

やそらくとぬるれぬ。りたれ
海をまそくと。有つれ海へきろう
乃山でぐれるちてくりてとてがれ
てう勢よろと

憑重荷

重荷としつも思ひあり漕
間のくり。漕まし身や流合
地獄乃。生死苦しミ。掬こりたに
へやこり給へ 思ひの煙立ぬ
まぐ。稲妻の山風吹き乱
れ。高路乃雪ふ深しとも。弥こそ
を恨へ雪ら霰か。孤よ跡も消
ぬ。やたまてて姫小松乃。枝ぞ
神と成ぬ代の陰をまもらはや
千代の陰をも寄む

碓

藤武ら接度へ北の國。是へ東乃
ぬまれも。西ふ来る秋の風乃
吹ちれとまら絶乃哀うつふよ
高湯の行端の松も心きよ。なのう
えくぶ。風のちとを踏ちきよ今
岩礁の拝そへく君ら彩よふき
やう勢切りよ吹て松風よわ心ちて
人よ乃ちうへ。乃ちを踏ちぬ
ねへしてろを。れうくもとを翁ふ
きてとふちはいた迄。哀ちかも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賢きめくくへ。君道のく。四海[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時おくいそ。持佛堂よりまりて
兄乃一万香を薫。死を伝てうと
きれも。弟は箱ヨ。平家物語をつくく
と海ゆりて。いて兄てせ咎をかる
乃名をと我敵。ユ義とやすり鈴を
ひりさを縄をそち。我はをうこて
たせ給ふるくれば。きアかり
て法首をお落さとやせ。兄乃
一万兄を少て。いそげあやいる成
ゆそ佛をい不動とかてをは
ユ義とをうちる。扱い佛みく
ゆ海ゆかてめひる力をきやに
さ。ゆるさせ給へ。敵を討を

給へや

七騎落

まの人ぐ心して。儀をあへる
あれうちよ。ゆ平いひるまうに。源
ぎを見えて見て。中くなりをの
も殺ぐ。心ぐくそ行法よ。敵大勢
見たりまやを遠平いうておる
とく。頼朝もあやられを陸をゆ給
ゆばさのまぐぎに。恩愛乃興りも
きぐ今を限りぞと思ひ定ひらか
儀過よりひ人者ぎ。心乃まくあら
ぎあれるゆ平と一河よ。計死ませ
をやとなぐれて。花立ぞりは男

[illegible]

弱法師

金堂は[illegible]本尊の如意輪の佛像。観世音観音ともやうとう。太子の御前ぜ。震旦國の思禪師よりてわたせ給ふ。[illegible]佛像なり。[illegible]日域に至る迄法宗初の御本尊。顕密の御願光の。[illegible]相應の法[illegible]。[illegible]寺は[illegible]の御願[illegible]。[illegible]梅檀の[illegible]。塔婆は金寶に至る迄。[illegible]檀金[illegible]。[illegible]万代[illegible]。

水迄も。水上清き西天の無熱池の御[illegible]。[illegible]流[illegible]。[illegible]五濁の人間を[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]鐘の拝[illegible]。[illegible]塩[illegible]。[illegible]皆成佛[illegible]。

同

[illegible]吉の松[illegible]より。詠[illegible]

月落ちて[illegible]鳴[illegible]と[illegible]

[illegible]

[illegible]日想観[illegible]

[illegible]

海辺をぞ[illegible]より〳〵。満月青山の
こゝろよあり。あかるぞそよく
松風。波の浦は波景乃松く
南へさてそとゆふ波の。須吉は松陰
ひゞく方の時をゆく。岩の緑
乃苔香山。地きいづく。雅波か
まそ長橋の橋はてゞらよかるゝ
ご家ゝとありく程よ。盲目はれ
しさは貴騨乃人ゝ行あひ岩
ぼ[illegible]ひゞよひ弘波江のぞそと
きよろ〳〵と。岩を。珠乃よ波ぶ
ゝ。人へ。見ひたゝまぞや。思へ亀
かゝや。岩人乃物ひゝ乃い波よりの

文ゝ物がたり

絵上

岩ゝ見ゝうゝと乃ゝ〳〵。鉄竜女
をゝつれくゝ波ひをゝたゝ。ぞ岩へべ
ゝ。ゝろゝ。絵ゝひきゝ。鉄竜女
絵巻乃絵ゝ。あゝひゝ波の。波をう
てゝ。ゝのゝひき琵琶ゝ。ゝ。ふ
岩ゝゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。

蹈鞴を踏づけて淤能碁呂島
を造り給へる

淡路

元祖伊弉諾尊二柱の神、おのころ島に降り給ひ
て、国土を造り給ふ。元祖伊弉冉尊、先づ淡路
の国を造り給ふ。淡路志摩日向并に四国の海岸
を作り出し給ひ、日神・月神・蛭子・素盞嗚
の尊、次に地神五代の始めなる、
皆淡路に出現中にも皇孫ハ日
向の国に降りの給ひて、地神第四
の鸕鷀草葺不合尊、
る代くとうや

放下僧

上人弓と申ハ、中ハ、弓を傳ふ。鳥兎は楽
を儀ふ。日月を宴ふ。顕浄穢不二
の秘法を表ふ。神通
力をもつて方便の矢を作りて四魔の
軍を破り給ふ。我らも是に倣ひて
ひとつの弓を持ちて矢を射ばやと
思ひ給へ。
同

面白ひ。花の都や筆よりも
及ばず。東よりハ抵国きよりの松ち
ゝ龍花。音ハ乃あらゝ地主

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある妻をもつたひとの離縁をいたくおそれて
身をせめるのやうにくくるしまずやなへ
ぬくくるしみは世の中にくるしみ
ぬと云ふも恨と云事もれさあらば
ならべ独りおもてに九つ乃
おぼえも成者りや昔名わが妻云
面歌よ立ちりやらや責てぎて分
なりて立く社へ二世ちひも有べ
籠なるのつ乃ちつ乃此竜やつら
ちつ乃此籠

錦戸

西に向ひく手を合を仏陀
佛助を給へと祈合てく心づ

走る氣色よ行ぬ威力よく増り
弥救ぎらくと押りて見れ成
者ぬ者に接心く閻王名者悪
善聴れ説者得大省恵智勢
者昔成佛昔成仏と祈勢
者い遠ふ立のちべ不思議や今迄へ
く大勢力に鬼れとんべ
弱りつて忘と起てたて
べ行べ見へるつ深へ雲
煙有るなもて煙と立ぬく鬼
れの出ぬ出ぬ

放生門

打盗法度に行ぬ二世安楽乃

神、德さなぶさらゆや。男山よ。松
こそ。水ぢもせそ。吹風いみお
宗相乃鄙者。。。華れ山のぐらそれ
ほら星神樂りんぎの心ぎめ。
そいてぐ神ぎびく。月げろ乃不清
水ぢんぢのらぬ搖日の孔宮あさから
ぬ搖日乃

須磨源氏

四方れ風を吹落く　引寺雲か
ぬ　雲のうら　ほんぢやく去
とうれみんでむ。ぢり給ふと搖
えてり。可ら山脈ぢきうと。紀
ゆ。いぬ乃きうぢあ。ぢよび君

ぢたもぢ。ぢぢうく。ぢたそん
去へ。抜則歡喜して。法ぬも去ら分
ぢと一乘乃。如久ちう初て。軍れ虚
妄法。聖愛不可捨ぞ。ぢ。ぢ。ぢめ
華嚴乃。法。般若よ乃。四十余
年。手顯真實乃方便成。ぢまと
うらぢきう。如法蓮華經ぞう。
真捨方便ぞれ。道よ。ぐ。ぐよ
有經や。經よ。乃。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。

狂ことぶきに、かぎりあるこゝちする。
汁粉、薬を。ちゃらんと。豆腐を。
を、出す。薬のあを。ぞうら汁
入勅使より見をたゞぎ。つ。前ハ鄙
縣乃山路の節はゆ。見やむしたゞ
のむ。ともにてゞ。ゆめ。むべや乃
堂とそ。あるなの。ひをのぶる。めぐ
たきよ

飛雲

上方鬼神乃通力恩よ。く。明王乃
けゞく。ふ。ふ。ふ。と。見へ。
。あゞ。ほんとまこれ。大地。なを。ふ
引。起つ。まろび。おの。れと。身を。責。苦
こと。所。よめ。ゞ。かんる。い。袖。を。う
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
やゆ。ゞ。ゞ。乃。ゆ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
あゞ。う。ゆ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。

浪潜

上方判。が。日。を。見。て。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
ひ。ん。長。刀。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
。り。の。味。方。乃。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
乃。き。べ。教。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
あ。げ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
を。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
き。る。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。
決。郎。兄。弟。二。そ。う。乃。あ。を。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。

能宝ものとぞてらひきるおし
あのきらよ。太刀をもるま
やいざやめいどれ仕はつきんとた
れろいあをけ一出ぶきらをたらん
でうよ殊てたちれ脇よきん
であてあ庫よ走づけり梅社
くく其遠昊ぞとい白波のあと
とひて角びうへあのき跡とひて
ふびすく

身延

日蓮命妙法蓮華経一部八巻四
七品。ぐくまとぐくを神力品を
しひべ経濁乱の悪世あんべ経

よくも自害きんと。男が定めきる
ぴ婦の分てそ長なれ。その時
腰刀を抜もて立寄。和も見て
股切らんも分も自害しぬと。しへ
刀を清えて胸のあてりふ
くすりくと倒きふ。ふれで。和泉を
死殿よえ付て法すり外ぴぞ書き
く

室君

ぴの手ぴてぴ世乃姫ちくぴ波
ぴ島声そへて。女ひらのひあまひ女
ぴらそぞのする宝ぎそれ行丹や去
ふらん。あさんまぶひとやらん風

そもいあつまりうたちまちやぶれそ尋ぬるに人はあつまりこの海も
なくなりぬるやあやしきこと、なんみちきざはの奇
うるわん

同

即のうんぞ逗遛乃被く風よ系
ぶく陽もそよ常ど。而い室乃海お
きてやはのぼりて。求菩提
乃。きをもとめ海きてぐりて
ト化亢せ乃。おをあらつるぢく
乃ゆへ。ぶおも乃大海とる
て。花ぬり。香くんぐつ。相ぬま

将衣たどやうてたきぐ。須ぶれ嵐よ
えるぶつ。被そあを紀海の波親の
鈴をむまぐれ。英い山よりやあ
ぬらん〳〵

胡蝶

傳へきく唐土乃。花ぶぐあるよ
う。夢の。小蝶乃姿うつ。あき
うる世の中ぞ。あつまきある。定め
あるさせとしびあぐらぷらさくら
みそうげ。ろる。光源氏乃古へそ。小
蝶乃舞べきて。芳ぷぬ。よのざる
金銀乃。めよ。を山ぬる。ぷ。
のきぬとうきぷ。花ぞ。小蝶を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

草むらにたるあしたのわらしべ

[illegible]

[illegible]

一角仙人

糸作乃志らべやうぐみ

盃も。度くめられむちぐの情よ心坪

うけて。仙人を法界に見弱車は出るも

たゞよ。舞の袖をかしてきをぶくみを

よろてび宮人をうつきちめぐ山

繪と売乃ご。帝都よ物をなびきり

三矢

柳沢閑明とやは。彭澤は今とれ

る。宮に有乃を。八十余日。印を

とひく去とろや。日本よ酒を愛し。柳

菊を殖ず。菊を東籬のそとにつて

南山をみれば。君に忠あ所ゆへとや

[illegible]

仙乃法を学むで。陸道士とやとう

後よい南山乃間寂観よ陽居して

まし海をり。山人ぐい天下にそなら殺

かゝそれこのすきば。廬山は虎溪よ

そ。ゆら無ぞれりきし

同

よ乃ご代を萬代をく。松ハ久しき例な

り。松も久しき。あり年を老

松も緑わら木は。小松四季にそを

あ[illegible]紫色した芋盛りの松蔭を愛[illegible]
[illegible]ろこれ[illegible]へ見かや[illegible]でいく
や[illegible]苔むした松[illegible]ろめる[illegible]へ例陸た
右よ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]て荒渡を過ぎ出
給へ例明[illegible]師よりく松見へ[illegible]
を[illegible]ろと一[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
[illegible]く[illegible]笑のまろ[illegible]や[illegible]けり

鳥追

[illegible]れと[illegible]ぞよ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]思[illegible]
[illegible]敵[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]

蘆

[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

けなく村々鳥友よりおもひ霧おもふ
ぞの氣色のさらん かゝれよ
移らく四の時理りあきや夏を
てちり入れ波の花よたち
ろ雷震雲行人の如てとゞや
あ心も深の深く軒をれ技
よ今宵契りぞ頼ゆき

水無月後

雲ころかき夕暮の神代今
の世れ あくるきふいあて
れ後ひあごめ老ぞめて心ぞ清
きれ後ぞ浪の白和幣麻の
紫の青和幣行きそ流し捨衣
の袂を清め心もぐる本性よ
成すまていざや神みまいらん洗
賀茂のかるの参覧

寄占

一生はかり夢のめ。弱の百年
の齢を約きん。ぞ。はは皆宮。
か常住の男。なん。命を水
上泡風に随てはめぐりぐこと
魂は籠中名鳥の開くを待く去
よ。れ。。消るそのは二度見へ。
それ。。重て。ら。須臾の生
滅。。。別離。。離散をそらめ

やう教如ゑ所はれあんごをうの教を立て
ぬ[illegible]ぬかや間魔法まうの責のそ
ぬ[illegible]ぬ利分を撥きぬいまぐぬ
くぐうけ煙をまぬれぬ[illegible]愛まろう
を惱をぬ[illegible]ぬう黄泉の責よ随の
ぬ[illegible]ぬ為ふ地まぬ[illegible]ぬ
ぬくけぬ[illegible]ぬや是よ[illegible]ぬ追求ぬ
而仏たぬ[illegible]ぬ思ぬ舊衣皆亡ぬ[illegible]
[illegible]て故人を知ぬ[illegible]ぬ親族ぬ
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ去ぬ[illegible]ぬ
ぬ[illegible]ぬ[illegible]

骨ばかりのえんくたる火を出し或時は
焦熱大焦熱の煙よりもまさり或時は蓮
太の紅蓮黒き氷よりも冷き鉄杖をうべ
かりて死人爆穴らをやく飢てハ
鉄丸をのみ渇てハ銅げを飲とやく
地獄ハ苦しきそ量なり餓鬼苦
昔ハいそ安息あり畜生修羅の虫
しも我らがいうてまちうべき身より
出まる科なる死ハ心の鬼ハ引ハ責て
かゝ様ハ苦ハなりつゝ也月ハ名ハ浮雲
後の世を迷ひあるべ

同

五神はれがら昔しめく　白

髮ハ乱きさろがらの　君ハ
らきるぬくみく　天よりけ
地ふたをきて　かゝ地の
く時　卯ノ花ぐの五月雨
もぬるやとぞ思ふ面よハ白汗をあゆて
後よハ露ノ玉ぬ時あ戸ぬあら乱
ちまゝ見ぶくハとうやうとうよの茅葺
く抑よ　ぬ家ハ家ハ家ハ
き立ノ居つ肝膽をくぶ神のおと
きり申上ることみえ侍るべ。神ハあゞらせ
給りぬとて　ぬ
我よりちつきて　伊勢路ノ京
まゝ　ノ

ぎ二見の浦より島友よびて伊勢名
所へぞくりまゐる

雨月

行燈の松よ吹きるそや上月雨ふる
あるりきりぬ夜のあられ吹落く
中く宮いまんよりの前のられ
月をそ見ぬ夜もきけとふく国乃行
端の松に風ついとみのけ岩乃浪
そほどゆ紙寝の夢をめるまう
まの〜とてそ振枕さらでも宮人よ
そあらぬいざく寝てよ伊ざく
寝てよ世のわざを賜乃めを
風〜とく寝揺れ馬いさも
あらで秋乃ちうそけ夜月見
てらてよ時雨きぬ夜そ時
雨の音仁よ花の
波そしとあるの心をそめて多く乃
ホ雲の袖のに露をもやど寺
月乃きて笠ねてたつるそみち坂
をもそまれあちりひぢけ仁ゑる木
の葉とら見集め雨乃ゆ隙と思ひ

古くる庵

雀〜見ん那や神ら庵人畢よ生を
受とハ云ものう見仏菌法乃結縁
をそ知ぬ〜べ来れ楽〜もいち
ぶと思ひ寄られり 九ほ法の出

[illegible]

[illegible]

杉侍

其時義經老尼よりかたり給ふやう。八嶋にて次信今はうよりとりてそ時思ひつるばかりいひをけやとてすぐ寿ねとて次信を付て見のたまひたより申やうもあるまじ[illegible]

替りて世をつゐ二世の孝ぎをやこの世ハ[illegible]侍恩をもとて報謝せんと命をすてゝ露塵ばかり惜らん[illegible]舊郷より[illegible]母と十よ年[illegible]事ハ不便なれ心よりも雲ハ月はおもひ日てもいとも間くゆゑ其まゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

國栖

去程に更きづまりておもむき
しいろふとてかけ程の御意
あぐちゑ申ごさ。きろも可ハ
月おきれ。こよ野あきや
花鳥の給ちるふよまて芸楽の呂
律乃きらるまこの程了。給乃拍
風かよひこまて天津乙女乃袖
五帝のそてめ見あるや

雷電

幼子もこ上きもけく母もあく行ほ
も一品ぬすまり一と芸遊乃養み
親よ乃契い乃間よ。宵月れあ

ろきて。懐ここて給ふ乃親の
ごく也。叔勧学ハ室ハ入僧正御
頼ちまつ。風乃宮ハ門を拍ほ
ちをあため夏む。芸ハ。
うちもあきらかハ。筆乃ちやし
を板きぐりぬ。ぬ乃いづこにまを
き。給ハ堪能ハ入を拍ぬ
めあらきハ。ハ
ころ市乃今ハ。ハ。字千人まり
いてう長や和き

絵馬

僧遍照ハ。乃板ハえてれ絵
くあ。ちこへ。給ハ。まる拍ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

現在七面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

照君

[illegible]

ねべ。[illegible]耳よ
[illegible]
浮ぶ。なもそぐり。鏡よ。寄そひ立
も。[illegible]
[illegible]
[illegible]

よひて手習ひ学問会ぜよ。はかりませと。仰しとまをして。ゆりをるゞ。西智や孝書ゞ仰。侍あらばと。ゞ。いまゝと見送り申。去ゞ。れ。ゝ。しを見れくり申て。うち去ゞきてそとゞまりをる

梅

申たきゝや。雅波乃多ゝ。大君れ。めゞみよそれ。孫べ。木迄。時折ゝをたゞべまして。花ゞき。家を。もそび。人民も。ゞやをらかゝ。ゝ。明れゞ。ゞ。れべ。明れ。春の山れを。白ひそめて。霞おゞらよ。明行ま

みゝ。緑乃空よたゞびゝ。自雲。天津乙女れ天つ。猛領巾。おゞ。ゝ。ゝ。ゝ。きを。ゝ。巌。我君ゞ代のたゞ。ゝ。ゝ。ゝ

きられぬ中若も手を合を立まして
ゆるし給へと泣居るを見て
いとをかしうし時よりもなを驚きて
むすんやお。敵乃手よも渡りぬ。
ある瀬川の瀬よも流みやをま
と。心よ無て思ひ祈乃夢れ下
時。花の夕べ乃山麓。多ちく泣く
ときに。お波羅の人やも。ぬくらん
もれを紛やと。思ひて音も今
思ひ出乃涙ぞ

高野物狂

朧月よ添ふるこの夕を。懐紙と。
人やみん 上句 弥もあ紀乃開

越ぞ名よ空。
の山深み。去げみれ木陰分行け
べ。家も熊波の山やらんと五ら
たを思ひの。昔床敷心よも物狂抵
君名やと。名山桜。根ほ道をいざ
や物ひらんいざ。物ひらん。立上る
雲路の。立上る雲路の袖ひつく野山
よきて見きべ。ふるやお。或念仏祈
名れ琴。或鳥鐘鈴の声。角
よそみ心まそて。お物ひの物ひ
もる心や。しつ。しつ。
る人を道のべ乃きよりれ。撫打あら
べ。おどろ主君よ遠ざらんと。怨了

移今して。三鉢は松乃下に塩壽
まて休まんいざ立よりて休まん

木曽

敵いホの義ふとちりぬべく酒
宴もむぞよあらべあり一ツ。
ふ一ぎやハ情の方よりも。ハ鶏翅を
あらべつ。味方は猿手よ乳をり。
約束の志ゝを懸しをれむ。木
曽殿をもてめ。軍兵ども。皆一同
よ加わ打ぐ。ひよく加護をで願
ひろる。扨こそ平家乃大勢を。こり
ゆらば吾よ。退廣ゝで一戦よ勝
利を得しも。まことよバ情は。非力

あり

菊慈童

ひとり乃酒あまべ。名ひよも打ち
ちまで甚多も智ら奴七百歳を
たそちぬも。汎古枕の故あれべ。
そ久敷ゝ秋の門。万巣の我君を
祈る慈童七百歳を我君よ捧
ぎ。所いきつ孫乃山路の菊水。
めやむもべや呑ゝ菊をでやつ
きをでと。きくはきゝて山路乃仙
家よなゝまく慈童へよきり

楠露

清兒名をよ代よ偽べ菊水

乃地流き久しき淩川満口上製
人の続とありてまひらをを乃
花橘れ匂ひぬる非ゆく
時刻を移るゆるとくゆれと
いさぎよ紀。作ゆるかゆる従い。
ゆ奴濁をひるゆべし。其名も清き
河内の國へ。帰ゆる孝行曽ゆ忠
義乃。ゆしこき左名しぞ。ゆゆゆる
き

明治四十三年八月一日印刷
明治四十三年八月五日發行

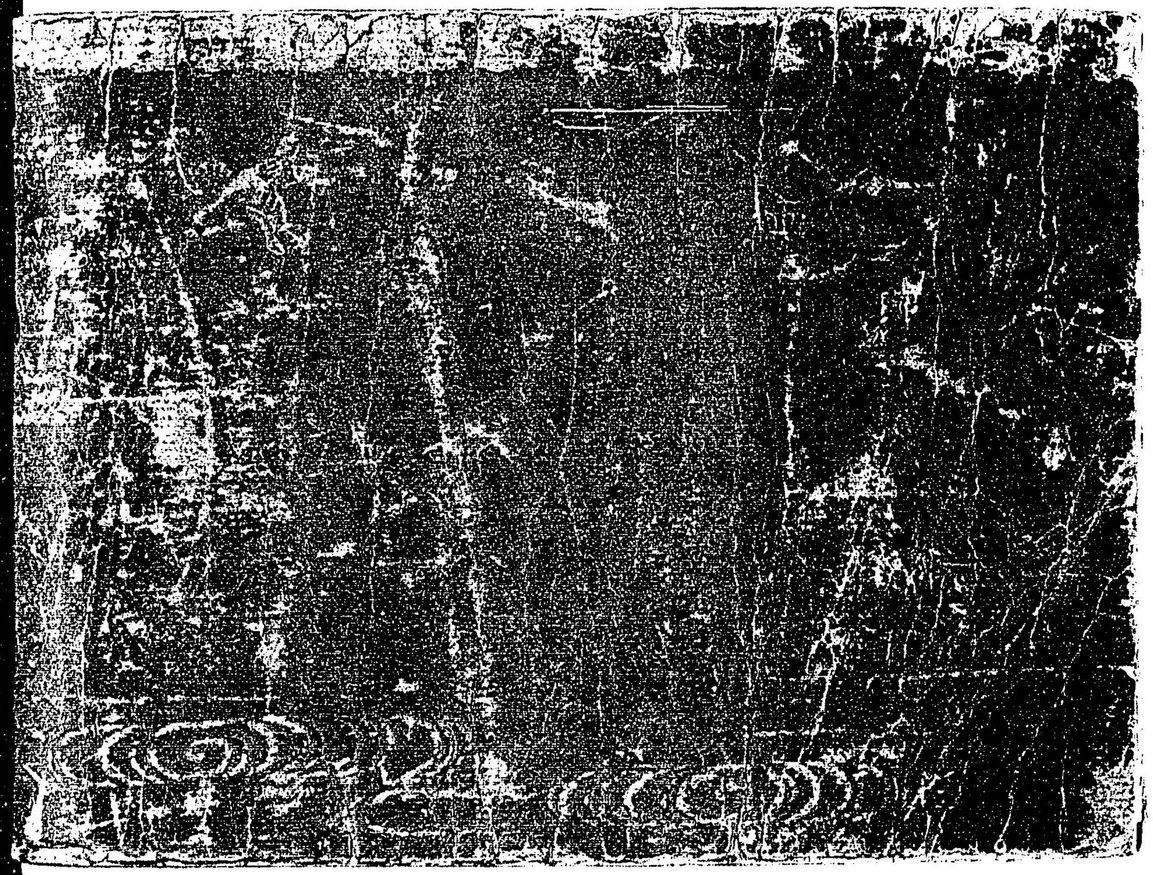
訂正者　瀧世清
（電話番号省略）

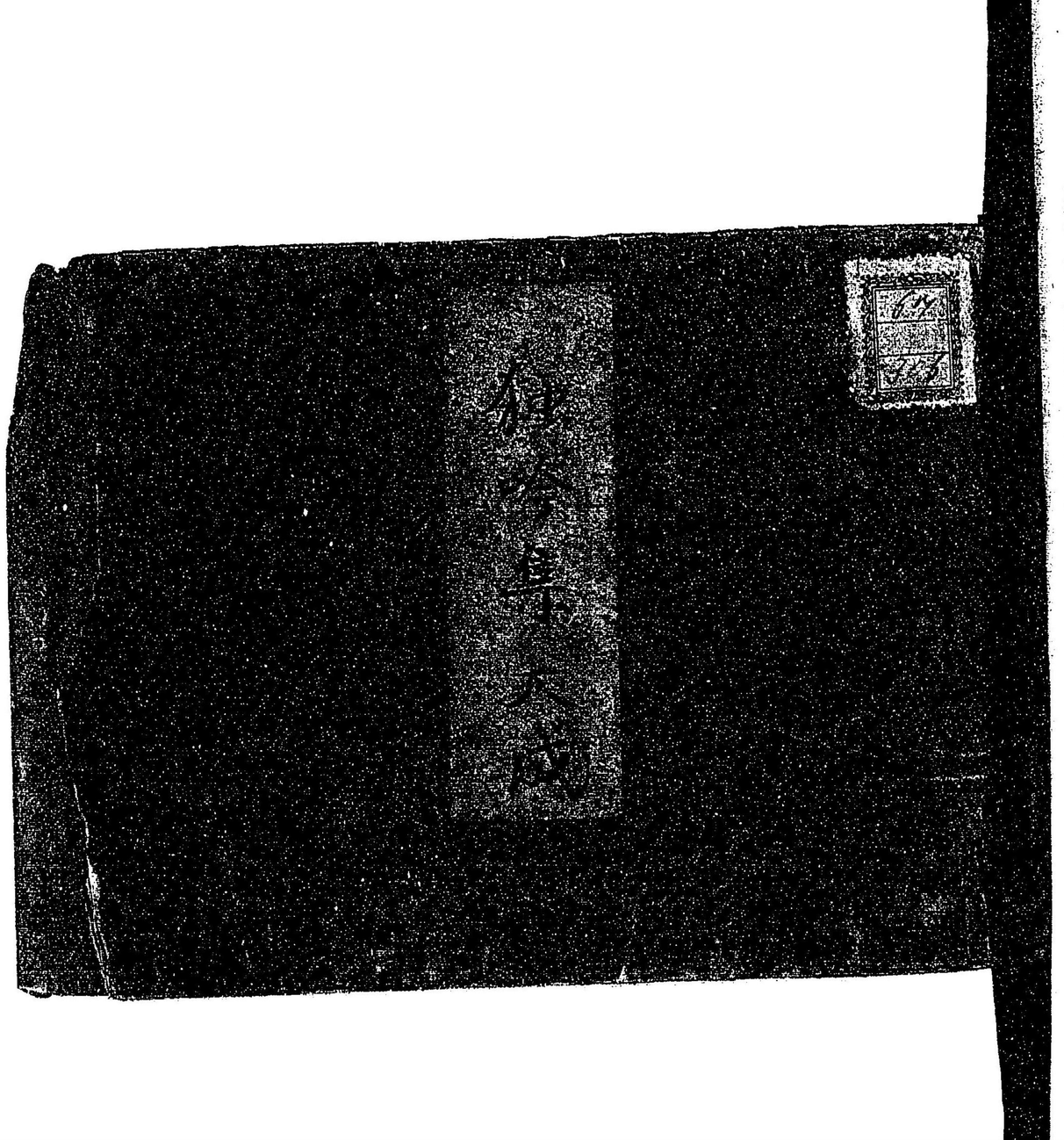
京都市上京區三條通鉄屋町東北角
發行兼印刷者　檜常之助
（電話特二十百九十番）
（振替貯金大阪三六一八番）

複製不許

特約店
東京市浅草區新福富町十一番地
檜印刷部
印刷所　青木常次郎

64
306





075024-000-4

67-306

独吟集大成

観世　清廉／訂

M43

CEL-0952